

# 川は ユリカモメの 道しるべ？

放送大学教養学部4年 竹重 志織

ユリカモメ *Larus ridibundus*



日本で越冬する小型のカモメ。  
日本における越冬分布域は比較的人口  
密度が高い地域であり、国外の繁殖地  
も都市近郊にある。  
→ 都市との関係が非常に深い鳥

東京都の神田川で行った調査（2017年12月～2018年3月）で、延べ21種9,608羽の水鳥を観察したが、そのうち2,865羽（29.8%）がユリカモメだった。観察したユリカモメのうち、524羽が飛来や通過などの飛行による移動行動であり、515羽（98%）が河川の直上のみを移動していた（竹重&加藤 日本鳥学会2018年度大会）。なぜユリカモメは河川直上を飛んで移動するのか？

仮説1 河川を日中と夜間の生息地間を行き来するための道しるべとして利用

仮説2 高層ビルが立ち並ぶ都心の中において比較的標高が低い、河川の真上を飛んで移動 = 楽だから？

仮説1  
の場合

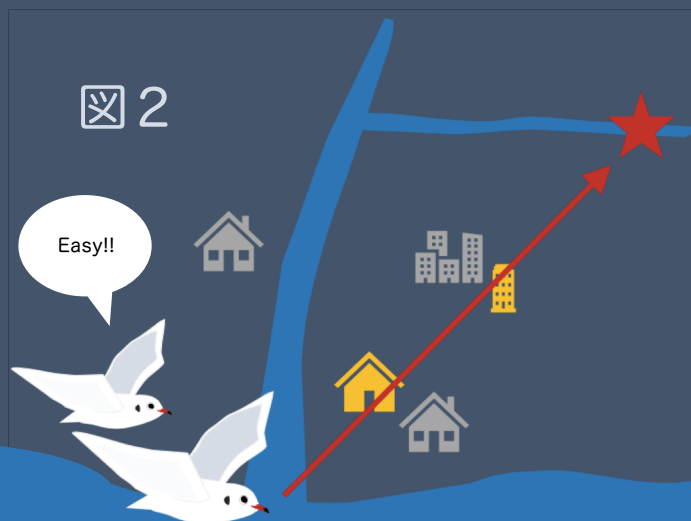
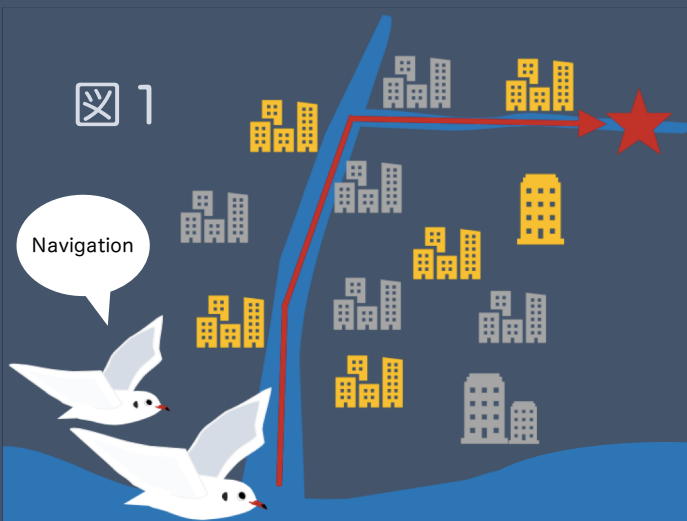
河川周辺の建物の  
高さに関係なく、  
☒1のように飛行

河川を暗渠化したり、直上に構造物を  
かけたりすると、河川を生息地間の移  
動経路として利用している鳥類の移動  
の妨げになるかもしれない。

仮説2  
の場合

河川周辺の建物の  
高さが低い場合、  
☒2のように飛行

ビルを高くし続けると、池などの河川と  
つながっていない生息地に行けなくなる  
かもしれない。



鳥の移動経路と土地利用との関係を明らかにすることで、  
鳥と共存するための都市計画に役立てる

# 目的



水鳥がどのような場合（周辺土地利用・近隣水域との距離など）に河川を生息地間の移動経路として選択するのかを明らかにし、ひいては鳥と共存するための都市計画の策定に役立つ知見を得たい。

# 調査方法

## 調査地

関東近郊の複数の河川  
目標調査河川数は10以上！

## 調査期間

2018年12月～2019年4月

## 対象鳥類種

カモ科・ウ科・サギ科・クイナ科  
・カモメ科などの水域を主な生息地とする鳥類

## 記録方法

ラインセンサスにて、時刻・種・数・位置  
および次の①②を記録

- ① 移動方向 例：上流→下流、河川を東西に横切りなど
- ② 移動空間 例：河川直上、河川東側市街地上など

## 分析

各河川を等間隔のメッシュに区切り、  
そこでの移動方向・移動空間と  
周辺土地利用・近隣水域との距離など  
との関係进行分析

# 助成金の使途

より多くの河川を調査するための、  
旅費交通費に充てさせていただきます！  
ご支援のほどよろしくお願いいたします。

